

「空き家バンク」活用で移住! 仙北市へ、えくきてげだんし

田舎ぐらし体験日記

定住・二地域居住のススメ

PART2

双金 秀明さん (45歳)

誌帆美さん (30歳)

美水ちゃん (1歳)

(仙北市西木町桧木内字相内潟37-1)



双金さんご一家は、岩手県気仙郡住田町から平成20年9月29日に移住されました。以前ご紹介した矢村さんご夫婦に続き、仙北市空き家情報バンクを活用し、移住を決められた2組目のご家族となります。

もともと秀明さんは関西の出身で、詩帆美さんは関東の出身。秀明さんは、東京でのサラリーマン生活に終止符を打ち、お二人は理想の田舎暮らしを求めて、長野県や岩手県で経験を積むことから始めました。何もかもが手探りでしたが、長野では冬の暮らしを経験し、岩手では秀明さんが地元の森林組合に勤めて、将来を見据えチェーンソーや作業車などの免許を取得しました。

8月に仙北市のホームページで空き家情報を知り、現在の物件を見学に訪れました。目の前が田沢湖で見晴らしがよく、囲炉裏がある情緒あるすばらしい物件に感激し、移住を決意されました。その背景には、以前、秀明さんが趣味の釣りで訪れた仙北市の印象が良かったこともあるようです。

引っ越しされてからひと月、暮らしぶりをうかがいました。

「引っ越し直後は、荷物の片付けや役所での手続き、妻の診察(詩帆美さんは来年2月に出産予定)などで忙しくしていましたが、最近ではやっと落ち着き、畑に野菜を植える余裕ができました」と秀明さん。

仙北市の印象をお二人にたずねると、「環境がすばらしいと思います。生活面でも以前住んでいたところより病院の選択肢も多く安心感もありますし、何より人情味がありますね。散歩していると近所の方から野菜をいただく機会が多いです。会話していても、相手を思いやる言葉に心地よさを感じます」と好印象。

現在の暮らしで特に困っていることはないそうで、地域にすっかり溶け込んでいる様子でした。最近では西明寺中学校の山鳩祭や仙北市の産業祭を見学されたそうで、活気があってすばらしかったそうです。

秀明さんには就農という夢があります。不耕起栽培、減農薬農法などの安全で安心して食べられる食事を子供に提供したいという、強い思いがあります。市の農業委員会を通じて、現在、貸していただける田圃を調査中とのことでした。

来年には家族がもう一人増えます。これからも理想の暮らしを求めて、仙北市に定住していただくことを願います。

